

メディアターミネーションポイントの設定

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[契約](#)

[背景説明](#)

[メディアターミネーションポイント](#)

[設定](#)

[コンフィギュレーション設定](#)

[Cisco IOS コンフィギュレーション MTP](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、メディアターミネーションポイント(MTP)とその設定値について説明します。また、より良い方法で説明するための設定例も示します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

契約

ドキュメント表記の詳細については、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

背景説明

メディア ターミネーション ポイント

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すれば、Cisco Unified Communications Manager で、SIP または H.323 エンドポイントまたはゲートウェイ経由でルーティングされたコールを中継することができます。DTMF または RSVP の要件に基づいて、メディア ターミネーション ポイント デバイスを割り当てることができます。RSVP 用のメディア ターミネーション ポイントを割り当てた場合は、SIP や H.323 デバイスを含む任意のタイプのエンドポイント デバイス間にそれを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントの Cisco ソフトウェア アプリケーションがソフトウェアのインストール プロセス中にサーバにインストールされます。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。

データベースで定義されたすべてのメディア ターミネーション ポイント デバイスがメディア リソース マネージャ (MRM) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイント デバイスの合計台数と使用可能なリソースを備えたデバイスを追跡します。

リソースの予約中に、MRM がリソース数を決定し、メディア リソース タイプ (この場合は、メディア ターミネーション ポイント) と登録されたメディア ターミネーション ポイント デバイスの位置を特定します。MRM は、その共有リソース テーブルを登録情報で更新し、登録された情報をクラスタ内の他の Cisco Unified Communications Manager に伝播します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダを同じ Cisco Unified Communications Manager に登録できます。詳細については、「トランスコーダの設定」の項を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco Unified Communications Manager のリストをプライオリティ順に受信します。メディア ターミネーション ポイントは、一度に 1 つの Cisco Unified Communications Manager にしか登録することができません。

設定

このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供しています。

注：このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

コンフィギュレーション設定

表1.メディアターミネーションポイントの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
IP アドレス サーバ	<IP Address MoH-Server>
[名前(Name)]	MTP_X
説明	MTP_<IP Address MoH Server>
Device Pool	デフォルト

Trusted Relay Point (信頼されたりレー ポイント) 非選択

表2. Cisco IOSメディアターミネーションポイントの設定値

フィールド	説明
IOS トランスコーダ情報	
トランスコーダ タイプ	Cisco IOS 拡張ソフトウェア メディア ターミネーションポイント
説明	<Location> <Streetname>
Device Name	MTP_<IOS Router hostname>
Device Pool	デフォルト
Trusted Relay Point (信頼されたりレー ポイント)	非選択

Cisco IOS コンフィギュレーション MTP

次に、トランスコーダと会議メディア リソースのサンプル ルータ IOS コンフィギュレーションを示します。

メディア リソース コンフィギュレーション

```
!  
voice-card 0 dspfarm dsp services dspfarm codec complexity flex  
  
!  
ip cef  
no ipv6 cef  
!  
!To enable Cisco Express Forwarding for IPv6, use the ipv6 cef command in global configuration mode. To disable Cisco Express Forwarding for IPv6, use the no form of this command.  
!!Set of Conferencing/Transcoding commands when used with PVDm2-XX DSPs: sccp local gig 0/0  
sccp ccm <primary CUCM IP for this Cluster> identifier 1 version <latest CCM version> sccp ccm  
<secondary CUCM IP for this Cluster> identifier 2 version <latest CCM version> sccp ! dspfarm  
profile 11 transcode description ***** Transcoder <Cluster Name> ***** maximum sessions <max.  
Number of Sessions> associate application SCCP no shut dspfarm profile 22 conference description  
***** Conferencing <Cluster Name> ***** maximum sessions <max. Number of Sessions> associate  
application SCCP no shut dspfarm profile 33 mtp description ***** Media Termination Point  
<Cluster Name> ***** no codec g711ulaw codec g729br8 codec pass-through maximum sessions  
software 500 associate application SCCP no shut sccp ccm group 999 bind interface gig 0/0  
associate ccm 1 priority 1 associate ccm 2 priority 2 associate profile 33 register MTP_<IOS  
Router hostname> associate profile 22 register CFB_<IOS Router hostname> associate profile 11  
register XCD_<IOS Router hostname> exit
```

確認

[Cisco CLI アナライザ \(登録ユーザ専用 \)](#) は、特定の show コマンドをサポートします。show コマンド出力の分析を表示するには、Cisco CLI アナライザを使用します。

- show sccp
- show dspfarm all

トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。